令和6年度 東淀川区区政会議意見聴取会 会議録

1 日 時 令和7年1月8日（水）午後7時から午後8時

2 場 所 東淀川区役所3階 区民ホール（WEB併用）

3 出席者の氏名

（東淀川区区政会議委員）

宇田 聖司議長、田原 佳織副議長、生島 靖委員、倉田 千夏委員、幸田 正人委員、高月 正人委員、長井 健委員、萩原 昭広委員、入谷 翔委員（WEB）、上原 雅子委員（WEB）、大賀 康忠委員、阪本 淳委員、中西 みゆき委員、松田 淳子委員、光本 陽子委員、渡邊 裕美子委員

（東淀川区選出市会議員）

石川 博紀議員、森 慶吾議員

（東淀川区役所）

武富区長、前田副区長、奥野総務課長、宮本総合企画担当課長、古川地域課長、大橋安全安心企画担当課長、中野企画調整担当課長、船倉保険年金課長、原保健福祉課長、大谷子育て企画担当課長、仲間地域包括ケア推進担当保健主幹、濱総務課担当係長

4 委員に意見を求めた事項

議題（1）令和7年度東淀川区運営方針について

（2）その他

5 議事内容（発言者名及び発言内容）

○濱係長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第2回東淀川区区政会議を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、また夜間にもかかわらずご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます東淀川区役所総務課総合企画担当の濱と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、オンライン会議も併用しての開催になります。ウェブで参加委員の方、聞こえておりますでしょうか。

カメラは常にオンにいただき、マイク機能はご自身が発言される時以外はオフにして

いただきますようお願いいたします。後ほど通信確認をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

本日の部会は20時までの予定としておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

それでは、開会に当たり区長から一言ご挨拶を申し上げます。

○武富区長 皆さん、こんばんは。新年明けましておめでとうございます。区長の武富でございます。

本日は、平日の夜間という大変お忙しい時間にもかかわらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この間、委員の皆様方には部会にご参加いただきまして、令和7年度東淀川区運営方針のたたき台について、いろいろご意見を伺わせていただいたところでございます。本日の本会では、各部会での議論の内容をご報告いただきたいと、このように思っていますので、よろしく願いいたします。

一方、区政会議の運営あるいは在り方につきましては、いろいろとご意見をいただいているところでございます。これまでいろいろと工夫を我々としまして重ねてきたところではございますが、委員の皆様方からのアンケート結果はもちろんでございますけれども、後ほどご報告でございますが、他区区政会議の事例、また、実際に担当者が他の区政会議の見学に行くなどしながら、また、あわせまして、委員の定数の在り方についても検討していく必要があるのではないかと、このように考えております。当然これまでの経緯はございますけれども、区政会議におきまして運営方針の内容などにつきまして十分に建設的なご意見をいただけるよう、区政会議の運営・会議の在り方について抜本的な見直しが必要であると考えておりまして、検討を早急に進めてまいりたいと、このように考えております。

さて、東淀川区は今年いよいよ区創設100周年を迎えます。これまで以上によりよい東淀川区になるように取り組んでいきたいと、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、風邪などもはやっておりますので、お体には十分注意していただきたいと思いますと思っております。

以上、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日は最後までどうぞよろしくお願いいたします。

○濱係長 本日ご出席の市会議員・府議会議員のご紹介をさせていただきます。

市会議員の石川議員。

○石川議員 自民党の石川博紀です。今日もよろしくお願いいたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。

○濱係長 森議員。

○森議員 明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

○濱係長 議員の皆様には、条例の規定により区政会議に出席し、会議の議論に資するために必要な助言をすることができるかとされておりますので、よろしくお願いたします。

ここで、本日の定足数の確認をいたします。

ウェブで参加されている委員の出席を確認いたします。名前を呼ばれた委員の方は、カメラ・マイクをオンにしてお返事いただけますでしょうか。

上原委員。

○上原委員 はい。

○濱係長 確認ができましたので、本日の会議は本会場にて12名、ウェブにより1名、合わせて13名の委員にご出席いただいております。出席者数は委員定足数36名の半数未満でございますので、区政会議の開催要件を満たしておらず、区政会議ではなく意見聴取会として開催させていただきます。

本日の会議の様子については、会議録を後日公表するとともに写真を撮影し、ホームページなどに掲載させていただくこともございますので、ご了承ください。

会議録の案ができましたら、本日ご発言いただきました委員の皆様にご確認いただく予定ですので、ご協力をお願いいたします。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

机の上に、議事次第、配席図、当日資料1、令和6年度東淀川区区政会議委員アンケートの中間報告、当日資料2として、意見の対応一覧の教育・健康・福祉部会の19番の別紙につきましては、先日の資料送付時に送付できておりませんでしたので、当日の資料とさせていただきます。

続きまして、先日の部会で使用した資料はお持ちいただいておりますでしょうか。前回の安全・安心・まちづくり部会で上村窓口サービス担当課長よりアナウンスさせていただいておりましたが、資料1の令和7年度東淀川区運営方針（たたき台）の経営課題5-3、具体的取組の窓口業務委託182,031千円につきましては、204,772千円に修正いただければと思います。数値は運営方針の案の策定時にデータを修正いたします。

資料をお持ちでない委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、ここから宇田議長に進行をお願いいたします。

○宇田議長 本会議長の宇田です。

初めに、今回の会議の流れについて簡単にご説明いたします。

まず、先日開催されました部会の報告を行い、その内容を共有したいと思います。

具体的には、安全・安心・まちづくり部会に関しては私、宇田から、当日に出された主な意見の内容と、それらの意見に対して区役所からその場でご回答いただいた内容を報告し、その

後、区役所から当日回答していなかった部分を中心に補足説明を加えていただきます。それが終われば同じように教育・健康・福祉部会の内容を部会長である田原さんから報告いただき、区役所からの対応方針を説明していただきます。その後、全体を通じて各委員の皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、議事の進行を円滑に行うため、部会で議論しました運営方針に関する資料の説明は省略させていただきます。

それでは、まず、安全・安心・まちづくり部会について私から報告を行います。着座にてお願いします。

安心・安全・まちづくり部会では、経営課題1、自助・共助を担う地域力とにぎわいある元気なまち、経営課題4、安全・安心のまち、経営課題5、区民の役に立つ区役所のあるまちについて議論いたしましたので、ご報告させていただきます。

まず、1-1、地域活動協議会による自律的な地域運営の促進、自主財源の確保に向けた支援についてですけれども、1から6番までのご意見をいただいております中で、自主財源の確保につながる情報提供はあるのかとか、地活協の作業の簡素化に向けた情報共有、会計業務共有アプリ等、具体的なツールが必要ではないかという意見につきまして、身近な取組の一例として、地域におけるコミュニティ回収における情報を提供しております。地活協の補助金業務の簡素化に向けて、既に市民局において事業者と契約し、補助金申請システムを構築しております。当区においては9月に希望のあった地域には区役所から概要を説明し、全地域対象には11月15日、地活協連絡会議後に市民局のシステム開発業者による説明会を実施し、以後、システム導入を希望される地域では7年度予算計画書から導入することになっております。

地域づくりアドバイザーが入っている地域の取組の好評なものを紹介してほしいということでは、区のホームページ「まちづくりお役立ち情報」に地域づくりアドバイザーが毎月各地域の工夫したイベントや取組などを紹介する地活協レポートを掲載しております。また、今年度は予算を大幅にアップし、つながりのイク取組になることを期待しておりますと報告がありました。

1-2、にぎわいや元気なまちづくり、町会促進についてですけれども、8番、新たな担い手として発掘に向けた貢献のために町会促進という方向で、本市では最も身近な地域コミュニティである町会への加入世帯数が減少し続けており、地域コミュニティの維持・活性化を目的に大阪市町会加入促進戦略が策定されました。これを受けて当区においても区や地域の特性や現状を把握した上で優先順位を決め、効果的な施策に取り組むため、東淀川区町会加入促進アクションプランを令和6年7月に策定し、町会等の取組支援を行い、町会等と協働で加入率向上の取組を進めております。集合住宅への働きかけの徹底、町会プロモーションの徹底、次世代型の町会モデル導入と展開の支援を3つの柱として様々な取組を進めてまいりますが、まず、

町会等のつながりが大切であるということを広く区民の方々に知っていただくために広報に着手したと考えております。

また、こどもたちに地域・郷土愛を育てていくために東淀川区に縁がある絵本に職員が音声を録音した上で区のユーチューブアカウントに動画をアップするとともに、職員が区内各地域へ出向き、担い手の生の声を聞き取った上で地域特性に合わせた効果的な取組を支援する準備を進めてまいりますと回答がありました。

また、区民まつりについては、当区では、地域のつながりを深め、心豊かなまちづくりを進めるため、地域活動協議会など様々な団体が協働で実行委員会形式、住民主体で区民まつりを開催しています。歩行者天国については、これまでから警察への相談や実行委員会において協議を重ねてきたところですが、迂回路の設定が困難であること、近隣店舗や施設への影響や来場者の安全確保などの観点から実施が難しい状況です。

また、露店については、各種団体の皆様にご協力いただき、令和6年度は44の店舗とキッチンカーブースを設けました。引き続き様々な意見を大切にし、より満足度の高い区民まつりを目指して検討を続けてまいります。

なお、令和7年度には区制100周年を迎えるため、記念式典と区民まつりを一体化のあるイベントにすることを計画しております。

次に、1-3、西部地域のまちづくりに関して、11から13ですね。元小学校の今後について、先日実施したマーケット・サウンディングの結果を踏まえ、事業者公募に向けた活用状況の絞り込みを行い、令和6年度中に活用方針を策定する予定であり、現在、アスベスト調査や不動産関係の商品化作業について実施しており、令和7年度中に終える見込みで進めているところでございます。活用方針の策定、商品化作業等が全て完了した後、事業者公募を実施していくこととなります。

また、現在、小学校の跡地の利用につきまして、各種団体、施設開放委員会にて使用されている現状ではありますが、今後は跡地活用の策定までは暫定的に地域の皆様のコミュニティのため、生涯学習ルーム事業や学校体育施設開放事業でお使いいただけるものと思います。

次に、4-1ですが、防災意識が高いまち、14から30、地域住民の防災意識向上に向けて、ここに上げてあるテーマは全て必要だと思います。ただし、地域防災計画を策定するまでには醸成期間が必要だと思います。その基幹となるのが地域防災リーダーですが、その組織体制の強化が必要であり、その策を検討する必要があると思いますというご意見に対して、当区といたしましては、引き続き地域防災活動の活性化の支援として各地域で実施される防災研修や防災訓練、消防署が実施する訓練等を通じて地域防災リーダーの育成に努めるとともに、地域防災計画を更新し、地域内での地域防災リーダーの役割や組織等の共通ルールが定められ、その認知度の向上及び人材確保に必要な機運が醸成されるよう啓発してまいります。

次に、福祉避難所についてですけれども、災害により甚大な被害が発生した場合、医療機関に傷病者が殺到し、対応が困難になる可能性があります。区内での災害時医療救護について医師会等関係機関の協力を得ながら体制構築を努めてまいります。

それに関して、21、22、福祉避難所は高齢者、障害者、乳幼児、病弱者等の入院の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所では、生活に支障を来す人を対象にした二次避難施設です。福祉避難所に対する理解が深まるよう各地域での学習会やホームページ等で啓発を進めてまいります。

また、福祉避難所開設前に避難される方への対応等の共通ルールの確立のためにマニュアルが作成できるように各福祉避難所との協議を行ってまいります。

本市においては、福祉避難所への直接避難は認められていませんが、避難所開設前の避難者受入れに関する共通ルールができるよう、マニュアルの整備について各福祉避難所との協議を進めるとともに、個別避難所計画作成への協力についても福祉避難所連絡会等を通じて各施設に要請してまいります。

次に、4-2、防災意識が高いまち、31から37、青パトは高齢化と車の維持管理費用の負担が大きく、当地域では休止している。今後、運営方法を検討してもらいたいという意見から、青パト活動の維持管理、従事者不足につきましては、地域で主体的に取り組んでいただく事項であるため、区が直接対応することは困難ですが、警察署と連携して希望地区で青パト講習会を開催するほか、地域防災に必要な経費は地域活動協議会の補助金の対象として引き続き地域での青色防災パトロール活動への支援に取り組むとともに、ウォーキング、ランニング、買物、通院、通勤・通学に、ながらパトロール隊の実施を地域での防犯の取組の中でご検討いただけるよう、各地域活動協議会に働きかけてまいります。

4-3、交通安全の意識の高いまち、38から42、11月の道交法改正によりキックボード等、ヘルメット着用時の啓発という部分の取締りがきつくなりましたが、これには予算上の制約があり、ヘルメット着用率アップの交通安全啓発に係る予算の増額は難しいですが、官民連携協定を締結している専門学校等と連携して作成するPR動画を区役所の待合ロビーで放映する等、限られた予算の中で工夫しながら啓発に努めてまいります。

また、警察と連携して交通安全教室、区民まつりなどのイベントを活用し、電動キックボードへの交通安全啓発等を組み入れた啓発活動を行ってまいります。

次に、5-1、区民のニーズを把握して反映する区政運営について、43から50、区政会議運営について、議論のテーマが絞り切れず、幅広くニーズ、問題点の掘り下げができていない、単純にたたき台の評価だけに終わっている、区政会議の位置づけが不明瞭、現状、区政会議の成果が見えない、何のために出てきているのかよく分からない、運営方針が本当に成果物とは思えないという意見に対しまして、区政会議は区役所が示した運営方針に記載した事業について

て立案段階からご意見を伺い、効果的・効率的に事業を実施していくこと、そしてその実績等の評価に係るご意見をお聞きし、次年度の事業をより効果的・効率的に事業を実施していくことを目的としています。委員の皆様にはお忙しい中、貴重な時間を割いてお越しいただいていると思いますので、その目的のために建設的なご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げますということです。

運営方針に連携という言葉が多く使われているが、実施責任は不明瞭であり、連携する仕組みを検討し、明記すべきであるというご意見に対して、2024年3月に策定した新市政改革プランにおいて、今後、社会環境は急速に変化していく中で、本市がさらなる大阪の成長や市民サービスの拡充に向けて政策を推進し、将来にわたり豊かな大阪を実現するために、未来へつなぐ市政改革として2040年問題と言われる生産年齢人口の絶対的不足を見据え、今後数年間は集中的取り組み期間と位置づけ、予見される課題や見えてくる変化に対応して改革をより一層進めていくことが不可欠です。

こうしたことから、限られた行政資源の中で社会環境の変化に柔軟に対応し、かつ新たな行政ニーズにも的確に対応できるよう、効果的・効率的な行財政運営を追求するため、DXを本格的に進めるとともに、さらなる民間連携・業務改革の推進に取り組む必要がありますとしています。そのため、民間にできることは民間に委ね、行政が果たすべき役割について市場原理が機能しない部分に限るなど、公共サービスの提供手法について改めて検証を行い、官民の適切な役割分担の下、行政が担っている事業を民間が担うことによりコスト削減やサービス向上が期待できるものは積極的に民間活力の活用を推進できるよう、現在、官民連携の取組を進めているところです。

なお、区運営方針に記載している連携につきましては、区長の責任の下、事業を進めてまいります。

5-2、伝えて行動につなげる情報発信の強化につきまして、区役所の取組が区民に全然伝わっていない、紙ベースだと見る人が少ない、そもそも区長の名前を知らない人が多い。区役所の様々な取組などをお伝えさせていただいている区の広報紙について、新聞の購買数の大幅な減少に伴い、折り込みによる広報紙の配布数も大きく減少しています。そこで、区役所出張所をはじめ、区内郵便局、駅、イオンスタイル東淀川、かみしんプラザ等の商業施設等で広報紙を配架するとともに、個別配布を増やす取組として区役所で配架している広報紙への案内チラシの挟み込みやイオンスタイル東淀川に設置しているデジタルサイネージによる広報等を実施しています。そしてデジタル媒体への誘導も重要であると考え、LINE、X、ユーチューブなども活用し、デジタル媒体への誘導も行っています。

区長は、区内の様々なイベントにも出席させていただいていますし、広報紙の毎月最終面にコラムを掲載しておりますので、広報紙をPRすることなどにより区長の名前も目に留まる機

会を増やしていきたいと考えます。引き続き魅力ある紙面づくりに取り組むとともに、SNS等で魅力を発信し、新規読者の獲得に取り組んでまいります。

快適な窓口サービスの提供と利便性の向上、マイナンバーカードを利用した取組が多い、安全性を広めていく、なくしたら大変なので持ち歩くのは怖いという人の意見に対して、マイナンバーカードはICチップを利用してオンライン上で安全かつ確実に本人であることを証明できるため、大阪市のDX戦略においても行政への申請・手続について、オンラインでより簡単、よりスムーズに手続が行われる取組を進めているところです。当区のマイナンバーカード交付率は11月末までに80.1%となっており、より多くの皆様がマイナンバーカードを利用した行政手続を通じて利便性を感じていただけるよう取組を進めてまいります。

マイナンバーカードは顔写真入りのため、なりすましはできず、オンラインの利用には電子証明書を使うため、12桁のマイナンバーを見られても悪用は困難です。また、ICチップには税や年金などの個人情報が入っておらず、不正に情報を読み出そうとするとICチップが壊れる仕組みなど、安全性が高い対策が取られている上、24時間365日体制で一時利用停止も受け付けているので持ち歩いても大丈夫だとうたわれています。取組を進めるとともにカードの安全性について周知していきます。

以上、安全・安心・まちづくり部会からの報告です。

区役所から対応方針の補足説明をお願いいたします。

○大橋課長 安全安心企画担当課長の大橋でございます。

たくさんの貴重なご質問、ご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

私のほうから4-1の防災意識に関するご質問、ご意見への回答、2つほど補足をさせていただければと思います。

議長のほうからご説明いただいたんですが、まず、福祉避難所のところで、福祉避難所のPRが十分ではないのでは、災害時、一般人が避難してくることを危惧しているのか、福祉避難所へ直接行けるようになっている、移動は負担になるので個別避難計画作成を進めてほしいということでご質問、ご意見をいただいております。

福祉避難所ですけれども、高齢者、障害者の方等で入院の必要や施設に入所するほどではありませんけれども、災害時避難所での生活というのが困難な方を対象にしている施設でございます。ですので、一旦は小中学校等の災害時避難所のほうに避難は、ご自宅とかが倒壊されて住めない場合は一旦は小中学校に行ってください、そこで区の職員、保健師さんが中心になるんですけれども、そこで、どうしてもこの方はここでは難しいとなりましたら、福祉施設のほうと交渉の上で受入れ人数を確定させて、そちらに二次避難をしていただくという性質のものになります。この特性につきまして理解が深まるように、さらに地域での学習会やホームページでの啓発を進めていこうと考えているところでございます。

福祉避難所の直接避難、大阪市は大都市ということもありまして、今のところ直接避難というのはマニュアル上認められていないという状況でございます。

区が取組といたしましては、当区で今年度に入りまして1か所、福祉避難所を新しく協定を締結している状況で、全体で20か所、協定施設というのがございます。そちらの方に先月、12月に一度お集まりいただきまして福祉避難所連絡会というのを開催させていただいております。そちらのほうでいろいろ福祉避難所の開設・運営、もし災害があったときに問題点を話し合ったりとか、今後の課題解決の方向性なんかも協議していく場にはしているんですけども、そちらのほうで、今回、来年度できたら福祉避難所のマニュアルを区としてつくっていききたいなと考えておりまして、その素案を見ていただいて、今、意見を求めているところでございます。

あわせて、福祉避難所の方とお話をさせていただく中で問題になっているのは、やはりふだんデイサービスなんかで施設を使われている方がそういう大きな地震があった場合、ふだん行き慣れているので、直接避難されることがそこで考えられるんですね。ただその時点では避難施設として指定をされていない、指定というか、開設されていない、二次避難所という位置づけですので、一旦小中学校へ行った方が避難、必要な方がそちらへ移動するという形になりますので、そうするとどうなるかと。福祉避難所として開設しますというアナウンスをする前に一定の方がもう既に避難されてしまっているという状況が起こり得るので、そういうふうなことも想定した上で、もしそういう想定外の事態が起きましたら、そのときにはどうするのかというのを含めて、マニュアルなんかでできればなと考えているところでございます。

あともう一点、ご質問の中で18番のところですが、行政の力点が避難に置かれているが、本来は災害があっても今の生活が維持できることであり、そのために減災に取り組むべきではないか、公助として共助・自助において減災をどうしていくかを考え、実行するべきではないかということでご意見をいただいているところでございます。

ご意見等をいただきましたとおり、減災を進めるためには自助・共助・公助が連携するとともに、避難だけでなく正確な情報収集、また、ご家庭での備蓄など、生活の維持という観点からの取組を普及させていくということがすごい大きな課題だと考えているところでございます。当区におきましては、平成24年から26年にかけて各地域でワークショップを開催させていただきまして、各校区ごとの防災計画というのを作成していただきまして、それはホームページのほうに掲載をさせていただいているところでございます。コロナ禍も明けまして、昨年度から地域の防災の取組が順次再開している中で、区のほうとしては、まずは地域ごとに特に大きな地震があったら近くで一度集まる場所、町会ごとに集まる場所を決めていただいて、その場所を起点にして安否確認、もし避難が必要な方がおられたらその避難の支援につなげていくということで、それをご説明させていただいた上で訓練の中で取り組んでいただけるように啓発を進めております。

10年になるんですけれども、各校区から地域の防災計画もこういうふだん防災の取組の結果、課題が見えてきますので、その課題に応じて、じゃ、次はどうするのかということがまた出てくると思います。そういうことを踏まえて防災計画のほうを更新していただけないかということで、そちらも昨年度から啓発を進めておりますので、なかなかちょっと防災訓練のほうを掘り起こししているところが第一になりますので、そこまで至らないところはあるんですけれども、それを通じて計画の見直しというところまで踏み込んでいければなと考えているところでございます。

以上、2点、追加の補足をさせていただきました。

○宮本課長 すみません、総合企画担当の宮本です。

私からも2点だけ補足させていただきたいと思います。

1点が43番、44番の後ろから2番目の先ほど宇田議長からも説明いただいたところなんですけれども、区政会議の位置づけについてのご意見、こちらについてはなかなか難しいと思いますので、再度ちょっと確認の意味も兼ねてご説明させていただきます。

区政会議は、区役所にいろいろ要望を出していくということではなくて、区役所がお示しさせていただいた運営方針に記載した事業について今開催しているのが区政会議、今開催している区政会議がそれに当たるんですけれども、立案段階から委員の皆様にご意見を伺うと。もう一個がその中で具体的にどのように事業を実施すると効果的・効率的に事業が実施できるかということをご意見いただく。そして年度が終了したときにその事業についての評価をいただくことで年々事業がブラッシュアップされていって、毎年その事業がよくなっていくということを目指しているものになります。

それで皆さんお忙しい中お越しいただいておりますので、建設的なご意見をいただいて、区政をよりよいものにしていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

続いて、別紙のほう、A4で別紙の8、最後、一番後ろのところです。資料の送付が遅いということについてなんですけれども、ご意見いただいておりますとおり、資料の作成に大変お時間を要しておりますして申し訳ないと思っております。委員の皆様から建設的なご意見をいただくためには迅速に資料を見ていただくことが重要であるということは区としても十分認識しております。

ただ今回の意見と回答をお配りした資料を見ていただいたら分かるとおおり、非常に多岐にわたる多くのご意見、ご要望をいただいておりますして、先ほどご説明させていただいたとおおり、区政会議は運営方針に記載をさせていただいた事業についてご意見を賜るとなっているんですけれども、それだけではないご意見というのもいただいておりますして、ただその全てに現状として丁寧に回答させていただいておりますので、どうしてもちょっとお時間がかかってしまう

という状況になっております。

そこで、運営方針に関するご意見のみに絞り込んで先行して回答するですとか、新しい回答を作成するのはどうしても時間がかかるということで、過去にいただいたご質問等、同様のご意見などがありましたら過去の回答をお示しするなど、資料作成をより迅速化できるように対応していこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

○宇田議長 ありがとうございます。

続きまして、教育・健康・福祉部会、田原議長、お願いします。

○田原副議長 教育・健康・福祉部会議長、田原です。

私からは、経営課題2、子ども・青少年の健全育成に地域が一体となって取り組んでいるまち、経営課題3、福祉と健康にみんなで取り組むまちについて議論してきた内容をご報告させていただきます。

皆さん、資料ありますか。

まず、2番、3番、経営課題2-1については、子ども家庭センターの認知度の低さや運営状況について意見が出されました。当事者が相談しやすく、切れ目なく、確実に支援を受けられるよう周知していくとの回答がありました。どんな相談があるかというのは検索していただいたらホームページに書いてあります。もちろん必要な人に届くように周知をお願いいたします。

続きまして、4から12ですが、そのほかにも子育て応援事業についてご意見をいただいております。次のページにありますように、別紙1から4のとおり、長いので読めないですが、意見と回答をいただいております。

2ページ目にまいります。

14番と16番、2ページ目です。経営課題の2-2と2-3では、アウトカム指標についての設問の仕方への意見が出ました。ご回答を読ませていただいたところ、やはり当事者による評価というのがハードルが高く、難しいのかなと感じました。

15番なんですけれども、具体的取組として、支援を必要とするこどもに合った施策につなげることができる体制の構築としては、東淀川区独自のものも取り入れていて関係機関にはつながることができるとの回答でしたので、その先にいる課題を抱えたこどもたち、子育て世帯の声をしっかり拾って施策を進めていただきたいと切に願います。

次のページで、19、20について、経営課題2-3、具体的取組である生きる力の獲得、ゲストティーチャーやステップアップ検定などのことですが、生きる力の獲得、自尊感情の向上のための施策の推進につきましてもたくさんご意見をいただいております。令和7年度からは変更になっているものもあります。令和7年度に向けてこどもたちの生きた経験になるよう确实

に実施していただきたいです。

続きまして、21番、読書環境の充実というところで分権型教育の推進に関してなんですが、読書環境の充実に向け、私個人としてはずっと意見を出させてもらっています。本を今の子があまり読まなくなったといっても、こどもたちはすごく図書の時間を楽しみにしています。多くの本に出会うきっかけをどの子にも与えていただけたらと思います。移動図書館のバスの時間が固定されていて、学校に行っている間に移動バスが来てしまって、うち小松なんですけれども、やはり淡路の図書館は遠くて行きにくいので、井高野なんかは土曜日に来られるという話なので、ちょっと曜日を変えるとかいうのができればいいなと思っていつも意見させてもらっています。ただちょっと今回、教育委員会事務局の所管のほうに伝えていただいたということですので、何かいいほうに一つでも変わることを期待しています。

続きまして、22から24、経営課題3-1、福祉コーディネーターの認知度などに関してですが、今回の地域福祉コーディネーターについては、広報紙でも大きく取り上げられたりしたこともありますので、今後はそこで知った人もいるかもしれませんので、認知度が上がっていくのではないかと思います。イメージ的には高齢者からの相談を受けているように感じますので、もっと気楽に多くの世代の方が気楽に相談できる身近な存在であることを分かっていたらいいなと思います。

経営課題の25、26番、経営課題3-2です。地域保健福祉計画について策定済みの地域と済んでいない地域の温度差について意見がありました。ただ地域の弱いところだけに目を向けるだけでなく、それぞれやっている事業が地域の中で助け合って支え合う仕組みの一つである見える化できるメリットがあって強みになっていくものだとして作成しながら自分事として捉えられたらいいなということ機運の醸成にも役立てていただけたらいいなと思います。

その中で個別避難計画の策定機運の醸成を支援するとあります。私も福祉防災の仕事もしていますので、どう進めていかれるのかということについては今後も情報を得ていきたいと思っています。

続きまして、27です。経営課題3-3、マイナンバーカードを活用して書類手続の負担軽減などについて意見があり、回答としてデジタルトランスフォーメーションなど、ちょっと言葉としては私も難しいなと思うんですけども、書類記入の負担が軽減しそうなシステムができていくという期待が持てました。本当のところ、当事者の家族としては、成人になって療育手帳を更新するたびに障害年金の更新もしていただけたらとてもありがたいなと思っていますが、課が違うのでいつもなるとは思うんですが、こうやって書類の記入の負担が軽減できるということはちょっと助かるかなと思います。

経営課題3-4では、すみません、次のページです。後回しにしがちな特定健診、がん検診の受診率向上への取組について回答をいただきました。結構お安い値段で受けられるというこ

ともあって、会社勤めの方以外でなかなか受けづらいなという方は、申込みもだんだんしやすくなっていくかなと思うので受けていっていただきたいなと思います。

30番で、ひがよどウォーキングマップの活用について意見があり、アプリの取得と特典について回答がありました。私たちもせっかく区政会議でいろんな情報を得ているので、こうして一回住んでいる地域のマップを見て歩いてみたらどうかなと思いました。全般的に相談のしやすさとか、参加のしやすさ、周知方法の工夫が課題なので、やはり教育・健康・福祉はみんなの生活を支えるものなので、必要な人に支援が届いて多くの人に分かりやすい区政になるように私たち区政委員も話し合いをしていけるといいと思います。

以上、教育・健康・福祉部会からの報告を終わります。

○宇田議長 田原議長、ありがとうございました、区役所から対応方針の説明をお願いします。

○原課長 保健福祉課、原です。ありがとうございました。

経営課題2と3につきまして、特に一つ補足がございまして、今、田原副議長のほうからお話がございましたが、健康づくりということでウォーキングマップのほうを作成しております、アスマイルという大阪府の健康づくりのアプリとも連携しております、健康づくりをしながらポイントもたまって楽しいつくりになっているというふうなご紹介をいただきましたけれども、東淀川区のホームページにもアップしておりますので、ぜひご活用ください。

ほかに特に追加するようなことはございませんが、たくさんの意見をいただきまして本当にありがとうございました。いただいた意見を参考にしながらまた今後も取組を進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○宇田議長 ありがとうございます。

では、ただいまご説明いただいた内容を踏まえまして、皆様からご意見を承りたいと思います。ご意見のある方は挙手でお知らせください。ウェブ参加の方も挙手していただくか、手を挙げるボタンでお知らせください。発言は私からの指名の後、まずお名前を名のっていただいってからお願いします。

なお、限られた時間ですので、ご意見は要点をまとめていただいて端的にお願いします。

光本委員。

○光本委員 教育・健康・福祉部会の光本です。よろしくお願いします。

教育支援事業について質問します。別紙4のQについて回答をいただきましたことについてです。

今回いただいた回答では、本事業の趣旨である児童虐待防止とこどもが泣くことを結びつける根拠が示されませんでした。子ども家庭審議会、令和5年9月に児童虐待防止対策の資料とその概要と考察では、この調査結果の解釈に当たっては留意が必要であるとただし書があります。東淀川区担当課がこの資料を解釈するに当たり、どのような点を特に留意したのかについて

て質問します。

まず、私からこの資料について意見を述べます。

この資料の留意すべき点は、これは死亡例のみを取り扱った資料であるということ、調査における有効回答数が極端に少ないため、分析が一般化できないということです。加害の状況としてある泣き止まないが最も多いとしても、それは全体のたった2割となっています。このたった2割を見ればこどもが泣き止まないことを原因として児童虐待が発生する場合もあると、このように解釈することはできますが、児童虐待の原因とはこどもが泣き止まないことであると説明できるその根拠を示す数値であるとは到底言えません。ほか8割の様々な要因があることのほうを十分理解する必要があるし、数としてもそちらのほうが多いということです。

つまりはたった2割に着目し、それに特化したアプローチのみを虐待防止策とした場合は、ほか8割の虐待原因が見過ごされるということになります。それでは虐待防止にはなり得ません。それが留意すべき点と考えます。

また、回答として資料を示す場合はタイトルをつけて示してください。子ども家庭審議会にもそれぞれ部会、分科会がありますので、その資料は膨大です。その中から勝手に見つけるというのでは随分といじわるですねと思いました。問い合わせましたが、回答もございませんでした。

そして行政が主導して児童虐待がこどもが泣くことに親が対応できないことであるという根拠のない言説を流布しますと、地域や家族間に子育てをする当事者にも子育てへの無理解を増長させることになるのではと懸念します。こどもは常に成長しますので、親の工夫や対処が常に追いつかないものですし、それが子育ての実態であると思います。

また、リアルケアベビーですが、ここにいる皆さんもそれを見ればおのずと分かることだと思うのですが、これは数分程度体験すれば育児に自信がつく、そんなツールではありません。これは確かに育児をイメージするためのツールではありますが、育児の手法を学ぶ要素はないです。これは育児のストレスを体験する道具です。そしてたった数分程度あるいは数十分程度ではそれすら体験できません。

回答の中には、育児する家庭の孤立化を防ぐともありますが、この講座に夫や祖父母を伴って参加することができる家庭よりも、この講座に夫や祖父母を伴って参加できない家庭のほうの方がより孤立していると言えます。この講座ではそういった層がほぼ自動的に排除されています。つまりはこの講座に参加してくださいでは、最もサポートが必要な層の孤立化を防ぎようがありません。

児童虐待は、こどもにとっても家庭にとっても地域にとってもダメージが深く、その防止に取り組むべき意義がテーマにありますし、人にとって社会にとっても重要な問題です。キャッチーな見掛け倒しのものではなく、誠実に真面目に根拠を持って現実的に取り組んでいただき

たいと思います。

以上です。

○大谷課長 ご意見ありがとうございます。

今いただいたご質問につきましては、この場ですぐお答えするということはできませんので、次回の会議のときにまた改めて回答させていただきます。よろしく願いいたします。

○宇田議長 ありがとうございます。

ほかにごいませんでしょうか。

萩原委員。

○萩原委員 安全・安心・まちづくり部会の萩原です。

4-1の21番、福祉避難所の件で要望というか、ちょっとお願いという感じでお話しさせてもらえればと思います。

東淀川区のほうでも、現在、20か所協定施設のほうを締結されてということがありました。やはり入所施設を持っている高齢分野でどうしても福祉避難所というのは増える傾向にあるかなというふうに考えています。東淀川区でいきますと、東淀川支援学校もある関係で障害の方の施設、実際に入所施設はないので厳しい部分があるかと思うんですが、その締結、協定の部分に関しましては、障害の方が特に安心して過ごせるような場所の協定のほうを結んでいただくことを今後検討していただければというふうに考えます。

以上です。

○宇田議長 ありがとうございます。

区役所さんから何かそれについてはご説明はございますか。

○大橋課長 貴重なご意見ありがとうございます。

福祉避難施設を指定せず、高齢施設のほう確かに多い状況でして、障害のある方用の福祉施設ですが、これはそういう対象になる、例えば乳幼児とかというふうな感じもありますので、より幅を広げられるように、相手方のある話ですから一方的に何かできるということはないんですけども、開拓ができるように考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

○宇田議長 ありがとうございます。

ほかはございませんか。

光本委員。

○光本委員 教育・健康・福祉部会の光本です。

別紙1の質問なんですが、質問内容が一部削除されています。このことについてご説明いただきたいと思います。

担当課に問い合わせましたら、削除された部分についてのことは分からないと、このまま総合企画よりそのまま来たということで伺いました。なので、総合企画のほうにお伺いすれば

いいんでしょうか。

削除された部分を説明します。リアルケアベビーを販売する日本ライトサービス株式会社にとって販売する商品の誇張・虚偽の紹介等は、その違法性を問われることでもあり、東淀川区行政がその商品について事実と異なることを知りながら故意に事実と異なることを広報することは、この商品を販売する日本ライトサービス株式会社の信頼を損ないます。株式会社が求める訂正を故意に、この訂正は令和5年度の11月に販売会社のほうから東淀川区に訂正を求めています。それを故意に怠る東淀川区行政の事務が民間企業への信頼棄損や偽計業務妨害に当たる可能性について、現東淀川区長と前東淀川区長に見解を望みます。この部分が削除されています。その理由をご説明ください。

○宮本課長 すみません、ご質問させていただきたいのですが、今読まれた部分が本日変えさせていただいたやつに入ってないでしょうか。

○光本委員 はい。

○宮本課長 別紙1。

○光本委員 その下にある。違います、違います。もう一回読みますか。

○宮本課長 すみません、ちょっとどこ、全然削除の意図は全くありませんので、また別途お伺いします。

○光本委員 つけ加えてもらえるようお願いします。また改めてメールか何かでも。

○宮本課長 ちょっとこの後確認させてください。

○光本委員 ありがとうございます。

○宇田議長 ありがとうございます。

続きまして、議題2、その他について区役所から何かありますでしょうか。

○宮本課長 すみません、今日の資料でお配りさせていただいた区政会議委員アンケート中間報告を簡単にご説明させていただきます。

以前からお願いしていますアンケートのほうでして、前回の8月の区政会議を期限とさせていただいていたんですが、残念ながらまだ36分の25の回答率ということになっております。このアンケートの実施目的につきましては、すみません、区政会議が何回か不成立になってしまったということを受けて、委員の皆様のご意見を伺ってその意見を参考に会議運営を見直していけないかと考えて実施させていただきました。アンケートの回答依頼はメールや電話で引き続き行っておるんですが、現在でもちょっと回答がいただけていないという状況です。

アンケートの現状というところで、今いただいている回答では、おおむね現状どおりでよいという回答が多くなっています。ただ一方、自由記述欄が区役所の説明を短くしてほしいというものもありますので、区からの説明は長くならないように気をつけてまいりたいと考えております。

ほかにもこだわった意見を言われる方に時間を取り過ぎているなどのご意見も複数ありましたので、委員の皆様にはできるだけ多くの委員の方が発言できるように発言時間などにご配慮いただけるとありがたいと考えております。

アンケートの目的が出席率の向上にありますので、ご出席をいただけてない方のご意見もいただきたいというふうに考えておりますので、今月中をめどに引き続き回答を依頼してまいりたいと考えております。次回の本会では最終結果を報告させていただく予定です。

このアンケートでは、ほかの区の区長からも最初おっしゃっていただいたように、ほかの区の区政会議の好事例なども調査させていただいて、運営方法ですとか、定数の在り方などについても早急に検討してまいりたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

私からは以上です。

○宇田議長 ありがとうございます。

最後に、本日出席の議員に本日の会議についてご助言などございましたらお願いできますでしょうか。

森議員。

○森議員 皆様、本日も大変遅くまで、委員の皆様におかれましても、また職員の皆様におかれましても本当にご苦労さまでございます。ありがとうございます。

実は、今日、横道議員が公務で来れておりませんでして、皆様にくれぐれもよろしくお伝えくださいということでございましたので、しっかりと本日の上がったご意見に関しましては府議にもお伝えしたいと思っておりますし、また、私におきましては市政のほうにしっかりとお届けしてまいりたいと思っております。また本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

○石川議員 自民党の石川博紀です。本日も誠にありがとうございました。

府議会のことについては私は分からないんですけども、本日、この時間に大阪市会としては議会はなく、恐らく公務に当たるのはこの区政会議のみと市会議員としては認識しているところなんですけれども、前回出席が少ないとの苦言が市会議員から幾つか出て、苦言が出た中、本日おれへんということに関しては本当に申し訳ありません。私からおわびさせていただきたいと思っております。

大阪市廃止の住民投票が以前にありまして、皆さんご存じでしたでしょうか。それが可決されていれば、実はこの前の大みそかをもって大阪市は消滅、この1月からは東淀川区としてありましたのは新たにできる淀川区の一地域となって、当然のことながらこの東淀川区役所は廃止と、区政会議も当然ありませんというところでしたけれども、幸い否決されたことで万博開幕の本年、冒頭区長からも話がありましたけれども、東淀川区100周年を迎えられたことをうれしく思う次第でございます。

武富区長から区政会議の在り方、運営について見直しが必要だというようなお話もございました。出席の数についてというところでありますけれども、以前、部会の会議のほうで述べさせていただきましたが、ちょっと話は変わりますけれども、17地域活動協議会の各地域のお祭りとか、こども食堂などに使われる地活協への大阪市からの補助金につきまして、11月14日の議会で私から区長に発言・提案をさせていただいたのを受け、武富区長、ご英断いただきまして、翌11月15日には地活協連絡会議で17地域の地活協補助金、人権啓発推進事業の見直しというところで、区役所のほうでそれはきちんと予算を取ってやると。地活協の補助金は地活協できちんと使っていただくということで、6万円ずつの補助金が地域、増額となったということをご報告させていただきました。

今、区役所の体制をしっかりと皆さんの意見を聞いて、どんどん改めてできることは進めていこうというような体制、武富区長の下でしっかりとあるものと信じておりますので、また今後も忌憚のない建設的な意見をいただけたらと思います。

ただ大変申し訳ないんですが、田原副議長からお話がありましたけれども、図書館バス、これは教育委員会の問題なんですというところで、どうしても役所として縦割りなところがございまして、区役所にしても、どこの部署にしても全部法律、条例に基づいてやっているところで、この区政会議は区役所の範疇というところではあります、オールラウンドに動ける大阪市として、ほかの建設局とか教育委員会も含めて話ができる議員が森議員と僕とおりますので、ぜひ今日お聞きしましたので、それがかなうとは約束はできないんですけれども、こういう意見があるということを私どもからも述べさせていただいて、改善につなげていけたらと思うところで、また、その他ご意見等ありましたら我々のほうにも寄せていただけたらと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○宇田議長 ありがとうございました。時間も迫ってまいりましたので、これからは進行を事務局にお返しします。

○濱係長 それでは、これもちまして令和6年度第2回東淀川区区政会議を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。